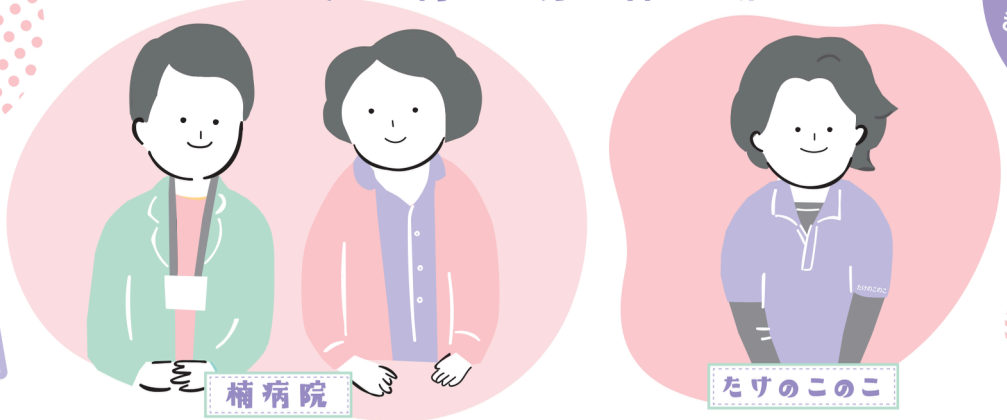
つながるスイッチ!! vol.35

久留米市社会福祉協議会

地域との関わり方ー新しい形

若い世代や、病院といった様々な立場で地域に関わり活躍している方々へお話をきいてみましたよ!



1 竹野校区 ボランティアグループ「たけのこのこ」

令和5年の豪雨災害をきっかけに、竹野校区では、地域のつながりを見直す動きが広がりました。被災された人や地域の皆さんが気軽に集まれる場として、「たけの交流カフェ」を開催。その活動をきっかけに、若い世代を中心としたボランティアグループ「たけのこのこ」が立ち上がり、日常のつながりの中で支え合いが生まれる「重層的支援」の取り組みを進めています。

ボランティアグループ たけのこのこ リーダー
右田 英嗣さん（右田果樹園社長）

「たけのこのこ」が立ち上がったきっかけ

「私たち『たけのこのこ』は、令和5年の豪雨災害をきっかけに立ち上がった竹野校区のボランティアグループです」と右田さんは話されます。

豪雨災害を体験し、地域のつながりの大切さを改めて実感しました。一方で、子育て世代、高齢者、一人暮らしの人、子どもたちなど、さまざまな立場の人が暮らす中で、困りごとがあっても相談できず孤立してしまうことや、支援が必要になるまで気づかれにくい現状もあると感じました。そのような状況の中で、**地域貢献のために自分には何ができるかと常に考えていました。**

そのような思いのもと、**市社協の生活支援コーディネーターから「竹野校区でも、地域のつながりをつくる取り組みを一緒に考えてみませんか」と声をかけていただきました。**その言葉が大きなきっかけとなり、同じ思いを持つ若い仲間が集まってボランティアグループ「たけのこのこ」が生まれたんです。職業は様々ですが、**地域活動に熱心で、みんな「竹野をより良いまちにしていこう」と同じ方向を向いています。**月1回会議を行い、意見交換を行っています。

「たけのこのこ」活動について

「たけのこのこ」では、**イベントの企画・運営、広報活動、相談サポートなど様々な活動をしています。現在は「たけの交流カフェ」を中心に、子どもから高齢者までが気軽に立ち寄れる居場所づくりを行なっています。**今まで行なっていた内容に加え、土曜塾の子どもたちが関わる「こどもカフェ」、住民の皆さんが持ち寄った野菜を使った校区防災士による炊き出しなど、**世代を越えた関わりが増えてきました。**また、冬休みには小学生対象にコミセンで映画上映会を行なったり、春には芝桜をコミセンに植えました。芝桜を植える時は、**自然と高齢者や子どもたちが集まり、交流の場となっていて嬉しかった**です。参加することで、自然と会話が生まれ、「○○さん」と顔が見える関係になることで、**小さな困りごとが早めに相談できたり、見守りへとつながったりする場になっています。**これは制度だけでは支えきれない課題を、地域のつながりで支える**「重層的支援」の考え方にも通じる取り組みだと感じています。**

これからのこと

まだ竹野校区は復旧・復興の途中です。災害から時間が経つにつれ、困りごとは見えにくくなり、孤立や不安が表に出にくくなってしまいます。豪雨により亡くなった人、竹野校区を離れた人を忘れてはいけないという思いが常にあります。だからこそ私たちは、**特別な支援を行うのではなく、日常の中で自然に支え合いが生まれる仕組みを大切にしていきたいです。**今後は、「たけの交流カフェ」を継続しつつ、地域に住んでいる人たちを自然に巻き込んでいけるようなイベントを開催していきたい

です。**大きなイベントを開催して終わりではなく、コツコツ活動していきたいです。**また、集まり事に出て来られない人もいます。**孤立してしまっている人も気にかけて、色々な人が、無理せずに参加できる地域づくり**をしていきたいです。そして、**若い世代や子どもたちの参加も広げ、みんなが安心して暮らせる竹野校区を目指して、活動を続けていきます。**

地域活動に参加してみたいけど、迷っている若い世代の皆さんへ。**まずは気軽に、一歩踏み出してみませんか。小さな行動が、地域を支えるきっかけになりますよ！**

2 日吉校区 医療法人 楠病院

日吉校区の支え合い推進会議は平成30年に立ち上がりました。楠病院は立ち上げ当初から参加しているメンバーで、法人の視点から意見やヒントを伝えています。日吉校区支え合い推進会議で困りごとや担い手アンケートを住民に行ったところ、防災に興味があるという意見がありました。様々な協議や取り組みを経て、令和6年度より支え合い推進会議の中で、「防災」をテーマとした取り組みの検討が進められています。楠病院として協力できることがあればと、防災や福祉に関する体験講座を行なったり、昨年度から日吉校区の文化祭〈日吉フェスタ〉のなかで、防災グッズの展示や体験を担当しています。

小規模多機能事業所 ひだまり
ケアマネージャー
小田 順一さん

医療法人 楠病院
常務理事
吉永 美佐子さん

「福祉体験・車いす体験」を実施

「会議のなかで、**災害時に車いすを無事に正しく押せるかという不安の声**がありました。実際に車いすにさわったことがないという人が多かったので、令和7年8月に『**福祉体験・車いす体験**』を実施。その際、『楠病院』が講師として車いす体験講座を行いました。**広げ方やたたみ方、ブレーキのかけ方すべてが初めての人ばかりで、実際に車いすで外に出たり、車いすに乗って振動も体験したりしながら、座ったときの視界も確認しました**」と小田さんは話します。

「段ボールベッド・エアベッド体験」を実施

「避難所で過ごす際、いったいどういう状況なのだろう、という声も出て、令和7年10月、**九州ダンボール株式会社さんに協力いただき、段ボールベッド体験を行いました。寝心地を体験できた、実際の強度や、隣の人との距離など、寝てみて初めてわかったというお声を聞くことができました。自分ごととして感じてもらうよいきっかけになったのではないか**と思っています」と話す吉永さんは、経験することはとても大事です！と伝えます。

これからのこと

「**日吉校区はマンションが増え、近所づきあいがほとんどない人が増えています。**地震がおきてマンション内のエレベーターが止まってしまい閉じ込められた時など、**お互いが助け合い、声をかけあえるような、ひらけた日吉校区を目指していきたい**です。また、住民の人に何か異変があった時、オートロックなので簡単に入ることができないという場合は、**マンション組合との連携が大事になってきます。どう連携をとっていくかが難しくこれからの課題**です。また、今後、子どもたちを巻き込み、ＡＥＤの設置場所を調べてマップ作りをしたいと、会議の中で意見が出ています。**楠病院は日吉の地に根付いて、おかげさまで100年を迎えます。感謝の気持ちを持ってこれからは地域に恩返ししていきたいです**」と吉永さんは思いを話します。

「**地域包括支援センターや地域の人との連携と情報交換が大切**です。お互いにＳＯＳが出せるつながり、**そして支援者や活動者同士のつながりを日頃から大切にしていると、いざという時の連携につながります。**これからの支え合い推進会議で日吉フェスタの反省会もありますので、今後の課題も見えてくると思います。これから日吉校区がどう防災に向けて取り組んでいくか、つめていきたいです。**地域を知るためには、法人や事業所が自ら動いていくことが大事です**」と小田さんは連携の大切さを語ります。

次の世代の声を地域の力として活かされたり、法人の得意を活かした取り組みをしたり、地域との関わり方は様々です。まずは知りあうところから。ご相談は社協まで。

久留米市社会福祉協議会
〒830-0027 久留米市長門石1−1−34
TEL：0942-34-3035
FAX：0942-34-3090
メール：heartful@heartful-volunteer.net
ＨＰ：https://www.heartful-volunteer.net

つながるスイッチ!!はHPでもwebマガジンでも掲載中

▶▶ 久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト
[note――つくる、つながる、とどける。]で「つながるスイッチ!!」を検索してください！
#久留米市 #社協 #地域 #福祉 #地域福祉 #支え合い #たけのこのこ #重層的 #相手の気持ち #恩返し